

立教英国学院通信

卒業終業礼拝

祝辞

在英日本国大使館総括公使兼総領事

辻阪 高子

本日、卒業を迎えられた立教英国学院の生徒の皆様、ご卒業おめでとうございます。お子様の成長を見守り、支え続けてこられた保護者の皆様、この日感慨深く迎えられたことと思います。心からお祝い申し上げます。また生徒たちを卒業まで導いてこられた先生方、関係者の方々にも心からお祝い申し上げます。

生徒の皆様の活動の様子とは、立教英国学院通信などで拝見しておりましたが、立教英国学院を訪問するのは今日が初めてです。広大なキャンパスと立派な設備、日本国内では考えられない素晴らしい環境、実際に来てみて、立教英国学院の素晴らしさを実感しております。家族と離れて寮生活だし、勉強も大変だったし、素晴らしいばかりじゃなかった、との生徒の皆様の声が聞こえてくるようですが、この学校で皆様が行ったものは、大変だったことを遙かに上回るものではないでしょうか。もしかしら今後は、それには気づかないかもしれませんが、今後、学校を離れた後、私たちは何年かたつた後に、この学校での生活、カリキュラムから得られた豊富な経験は、随所で役立つことと確信しています。

本日は、お話しする機会を頂きましたので、頭の片隅においていただきたいと思います。二つ申し上げます。

一つ目は、チャレンジして欲しい、うまくいかないかもしれないけどもそれを怖がらずにやってみて欲しい、ということですが、私は総領事、ということでも偉そうな肩書きですが、私にも上司がおり、仕事では問題も抱えています。先日、その問題の一つが解決できたと上司に報告に行ったところ、「良かった、やればできるじゃないか」と言われました。やれば、できるという結果が保障されているわけではありませんが、やらなければ、やってみなければ、絶対にできなかった、という当然のことを再認識しました。些末な例をだしてしまいましたが、申し上げたいことは、将来こうなりたくな、これをした、こうなつたらいいな、と卒業にあたって、皆様は様々なことを思い描いておられることと思います。ただ、いくら思い描いても行動に移さなければ、絶対に実現しないということです。誰でもわかってはいる当たり前のことですが、うまくいかなかったらどうしよう、かつこ悪い、友達になんと言われるかな、とか思うかもしれない。でも、これになりたい、これをしたという夢を夢で終わらせるのではなく、実現するためにまずはよく考える、そして一歩を踏み出してやってみる、チャレンジしてみる、そういう姿勢でこれから的人生を歩んで欲しいと思います。

二点目は、その時々でのベストの選択、後悔しない選択をして欲しいということですが、また自分の話で恐縮ですが、高校進学の際に七転八倒して悩みました。二つの学校のうちどちらに行つていいのかわからない。先生はA高校がおすすめ、親もそれがいいのはいかという、でも私はA高校もいいけどB高校に行きたいな、という状況でした。この高校選択から始まって、その後も選択の連続でした。皆さんも選ばなければいけない局面を迎えることがあるでしょう。右へ行こうか、左へ行こうか、右へ行つても、左へ行つても、いいこともあれば悪いこともあるでしょう。悪いことばかりで続けられない、やつぱり右じゃなく左に行けば良かったと思うこともあるかもしれませんが、ただ、自分で選択したからには、その選択に責任を持つてくたさい。親が言ったから、先生が言ったから、こんなことになつてしまった、と、うまくいかないときはど誰かのせいにしたくなりません。自分で決めた、そのときの自分としてはこれがベストの選択だったと振り返ってみたときに思えるような選択をして欲しい、と思います。悩んでいるときは、目の前の右か左かにだけ、目が行きがちですが、一歩引いて、第三者的に自分の置かれた状況を考えてみることも大事だと思います。あたりまえのことばかりで、もうそんなことわかってはいる、知つてはいると思われちゃうのが、卒業の日に当たり、将来に思いをはせておられる中で、あえて考えていただくためにお話しした次第です。



引き続き立教英国学院で学ばれる方、巣立つて行かれる方、皆様の進路はそれぞれと伺っています。どの学校に行つても、また世界中のどこに行つても、この素晴らしい環境で学んだこと、経験したことを糧として、大きく羽ばたいて頂きたいと思えます。そして、世界で大いに活躍されることを期待しています。ご自身の意思と努力で明るい未来を切り開いて行かれることを心から祈りして、私からの祝辞とさせていただきます。

あらためて、ご卒業おめでとうございます。

目次

1 ページ	卒業終業礼拝
2 ページ	2018年度3学期の主な行事
2-5 ページ	卒業生スピーチ
6-7 ページ	部活動・同好会活動特集
8 ページ	サッカー部プレミアリーグ観戦
9 ページ	パンケーキパーティ
9 ページ	全校かるた大会
10-11 ページ	3学期アウトティング
11 ページ	退任される先生方
12 ページ	チャプレンより

第二八一号 二〇一九年 三月十六日
 発行者 立教英国学院
 RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND
 GUILDFORD ROAD, RUDGWICK RH12 3BE
<http://www.rikkyo.co.uk>



1

JANUARY

13日(日) 始業礼拝
 14日(月) 高等部実力テスト
 20日(日) センター英語
 26日(土) 実用技能英語検定一次試験
 高2 河合塾模試～27日

2日(土) ブレイク～5日(火)
 男女バレーボール部
 Epsom, Burgess Hill 戦
 サッカー部 Christ Hospital 戦
 Chichester Festival
 for Music, Dance and Speech

3日(日) バトミントン部
 Midsussex Tournament

4日(月) 全校アウティング

5日(火) 生徒会選挙

9日(土) Premier League 観戦

10日(日) 漢字コンクール

13日(水) 女子バレーボール部 Burgess Hill 戦

14日(木) 男女バレーボール部 Michael Hall 戦
 Worthing Music and Art Festival～16日

16日(土) 全校かるた大会

17日(日) 軽音楽部コンサート

24日(日) 実用技能英語検定二次試験

27日(水) 期末試験～3月4日(月)

3

MARCH

1日(金) 小6 アウティング

4日(月) 期末試験終了

9日(土) 卒業終業礼拝、児童生徒帰宅
 希望者ホームステイ、短期留学

10日(日) 春期休暇開始

11日(月) 高2 特別補習～15日(金)

16日(土) 児童生徒帰宅

2018 年度 第3学期の行事

2

FEBRUARY



卒業生スピーチ

小学部六年 一林 晏珠

私は、去年からこの立教英国学院に来て良かったと思っています。なぜならふつうの小学校ではできないことがここではできるからです。

去年は小学生全体で男の子五人、女の子四人で一年がスタートしました。教室ではほぼ毎日けんかが繰り広げられていてあまり平和とは言えないクラスでしたが、いつも男の子たちがおもしろいことを言ってみんなを笑わせてくれました。今でも去年からいた人と、思い出話をしたり、ある男の子が残っていた名言を思いだしたりして笑い合うこともしばしばあります。

私はあまり勉強が好きではありませんでしたが、立教にきて勉強が好きになりました。放課後に自習室で勉強するようになり、英検も順調に受かることができています。

私が勉強が好きになることができたのは、先生方の分かりやすい授業や説明のおかげです。算数の授業では毎回一番最初に九九のかけ算や分数の計算のプリントをやりました。最初は時間内に計算ができませんでしたが、何度もやるうちに決められた時間よりも、早く正確に計算することができるようになりました。

国語の授業でも、ひんぱんに漢字テストがあるので「勉強しなきゃ。」と思い、よく自習室で勉強することができました。そのおかげで学期末の漢字五十問テストや、漢字コンクールの点数も上がりました。

私は月に三回ほど行く克蘭レーのセントニコラス教会への外出をととても楽しみにしていました。なぜなら、礼拝の後のお茶会に来た方々とおしゃべりができるからです。最初は、話しかけるのにととても緊張しましたが、話しかけると、みんなとてもやさしくて、今では毎回三人以上の方とお話しています。

アウティングは、お買い物をするのも道を聞くのも英語なので、自然と英語を使うことができました。これは、ふつうの小学校ではできない体験なので立教に来てよかったなと思っています。

食事の席や部活動、行事の時には先輩方はやさしく話しかけてくれました。球技大会ではTシャツにメッセージを書いたり、書いてもらうのがとても楽しかったです。部活動では私ができなくても怒らずにやさしく教えてくれたり、下手でもほめてくれたりしました。特に、食事の席は私にとつていやしの場所でした。五年生の初めの頃はとても緊張して食事に行きたくなかった、と思うことがしばしばありました。でも、六年生になって立教に慣れて、先輩方と話すことができるようになりました。今では、先輩方が話しかけてくれた時は、何かいやな事があっても、そのいやな事が一瞬で吹



き飛ぶくらいうれしいです。本当にありがとうございます。立教の先輩は私のあこがれです。

私は、六年生になってからこの地域に住むオリビアさんという女の子と友達になりました。学期に二回ほどオリビアさんのお家で遊んだり、英語で話したり日本語を教えたりしました。オープンデーも見に来てくれて、一緒に展示物を見て回りました。オリビアさんが話していることは分かるのですが、自分が言いたいことがうまく英語で話せない時があるのでこれからも英語をがんばろうと思います。

立教で学んだ沢山のことをいかして地元の中学校でもがんばります。そして、立教の先輩方のように明るくてやさしい人に私もなります。

Graduate Speech

Middle School 3 Ayato Yamazaki

Good morning. I am honored to stand here and to be given an opportunity to speak on behalf of my class.

I would like to talk about my memory with my friends at Rikkyo. First of all, it seemed to me that the graduation ceremony was always the same but now I am standing here it feels different. Every graduation ceremony I attended, I always respected the graduates. They were good at playing sports, very good at music, smart and so on. None of them were the same. They always had their own strong personalities. Of course, the same is true of my class.

My classmates also have strong characters. Some of us are funny clowns, some are great musicians, and some are good artists.

Looking back at the years we spent together, my class was unique but special and we are all good friends. And as of now, I can say that time flies when you are having fun.

We especially had fun on all our outings.

I feel lucky to make true friends here who will be my friends for my whole life. My friends are smart and have warm hearts. I am actually unhappy to be away from them though I know I will keep in touch with them.

You might think that it is sad to graduate from Rikkyo but it is the beginning of a new phase of life. So, I am proud of graduating from this school. I look forward to seeing you again and catching up. I am happy if you sometimes get in contact.

In my school life here, I was helped and supported by many people, so I want to say thank you to all of them.

Preparing for end of term exams, I went to the teachers with questions and they answered in earnest and that, together with

my endeavor, helped me graduate from here at the top of my class.

The kind people around me: the teachers, my parents and my friends helped to give me knowledge and made me the person I am today.

Well, there are many new things to learn and discover and we have accumulated knowledge and experiences here, that have made us ready for flying into the new world. I'm looking forward to meeting new people and making new friends.

I need to thank everyone (teachers, parents, and my nice friends) as they are important for my life and for happiness.

Thank you all very much.



卒業生 スピーチ

中学部三年 山崎 礼人

先日卒業生代表スピーチの話が来て、色々振り返ってみました。

目の前にある日常を多忙に過ごしていたため気づくこともありませんでしたが、この立教はイギリスの学校で特別なことがたくさんあるだけではなく、すべての時間が自身の当たり前の日常生活になっていたと思います。今となつては時間が集約され、とても短い4年間だったと感じています。しかし、同時に非常に価値のある素晴らしい時間をクラスのメンバーと過ごすことができたと思っています。そして数時間後には卒業していると考えたと信じられない気がします。

私がこの立教生活をスタートしたのは小学部六年の時でした。寮生活の上に、国外という全く新しい生活で楽しいことも沢山ありましたが、慣れるまでにはそこその時間を要したように思います。

立教生活の一日のほとんどの時間は授業か自習ですが、それ以外にもギルフォードショッピングやオープンデー、漢字コンクール、因数分解コンクールなどの沢山の行事がありました。そして学期末には期末テスト。一つ一つの行事に大変だ、面倒だといった気持ちもどこかには存在していたと思います。しかし一つ一つのことを積み

重ねるのが私にとつては苦ではなく、達成感に変わっていききました。その地道な積み重ねと周りの先生たちや友達をサポートによつて様々なことを達成することができ、今の自分があるのだと思います。特に英語ではターゲットやリーディングマラソンを毎日やったりECの宿題を自分が納得できるまで徹底的に調べたりするなどの小さなことの積み重ねと英語の先生の強力なサポートにより今は英検準一級にまで至っています。

中学生になつてからは、様々な個性があるたくさんの友達に出会いました。中には海外の現地校から来ていて興味深い話をする人がいたり、ムードメーカーがいたり、面白い趣味を持つ人がいたり、このような個性が入り混じるクラスは、数多くあるとは言えないでしょう。そんな人たちのなかでの毎日は刺激的でとても充実していました。とはいっても、初めのうちは誰もがエネルギーで、喧嘩やトラブルが絶えず、教室で突然甲高い奇声を上げる者もいれば、少しのことでキレる者もいました。勿論それには担任の先生の怒声がつきものでした。そんなことがありながらも教



室に笑い声が絶えたことはありませんでした。このクラスの雰囲気はそのエネルギーがあつたからこそ、とてもにぎやかで楽しい雰囲気を出してくれたのだと思います。オープンデーでは問題が発生した際にも不平を言わずみんなで協力して解決にあたることができたのも一人一人の熱意やパワーがあつたからこそだと思います。

そして、何があつてもみんなよい仲間で、このかけがえのない素晴らしい三年間を過ごせてきたと本当に思います。

さて、中三の夏にはロイヤルグラマースクール現地校短期留学に行き、現地校の同学年と触れ合い、またどんなことをやっているのかということ、身をもつて肌で感じるという貴重な経験ができました。

いま、人間力が大切といわれる世の中でも、それもまずは総合的な基礎力の上になり立っています。そしてそれができたのがこの立教でした。私はこの立教から本当に多くのことを学ぶことができて本当に良かったと思っています。

私は高校生になるまでに、日本の学校をのぞいてみる機会がありました。みんなグローバルな時代を生きるには何を学ぼうか、何がグローバルか、という問いを追求しているところが沢山ありました。立教生は全員すでに、普段からグローバルな世界を感じ、生活しているのだということに改めて気づきました。本当にこの素晴らしい立教に感謝しています。

中三のメンバーへ

いつも口を開かないでいる時間はないくらい騒がしく、楽しい時間をいつもありがとう。

みんな一人一人個性があるといまも思

う。特にオープンデーでは、トラブルだらけで大変だったのにもかかわらず、最後は凄いものができていた。中三の時のオープンデーでは、工作技術の才能を開花させた人やイラストがとても上手な人、準備期間終盤ではレンガのペンキ塗りを素早く完成させた人、そのすべての個性があつて中三のオープンデーはいつも素晴らしいものになつていたのでと思う。そして毎回素晴らしい達成感を得ることができたのはこの中三のメンバーがいたからこそだと思う。

これからは顔を合わせることはめつたにないだろうけど会えた時にはたくさん話すことを楽しみにしている。いままでありがとうそして卒業おめでとう。

最後になりますが、私たちをいつでも支えてくれた先生方、家族、かけがえのない友達には本当に感謝しています。

ありがとうございました。





High School 3 Kazuki Kamada

Good morning, ladies and gentlemen. I would like to say thank you for giving me this opportunity to stand in front of my fellow students, teachers, and parents to make this speech today. Moreover, I am giving a speech in English. Reflecting on the past three years at Rikkyo, I think they were the most fulfilling and special years I have ever had. That's why I feel very emotional every time I think of my time here coming to an end. If I have a chance to revisit here after this graduation ceremony, I will not be wearing this school uniform with traditional red tie and golden badge on my chest. So it may be the last day I wear this uniform. From this view point, it has dawned on me that I am leaving.

I still remember clearly the first reading marathon article that I read in this school. Probably, a large number of students in this school from primary school to high school have worked on this before and it is one of Rikkyo's famous English training methods. If my memory serves me correctly, the article on the 10th, April the day I entered this school was "Why are One Direction taking a break?" "Break. Did they destroy something?" I thought they had. Surprisingly, I did not understand the word "Break" which means a period time in order to rest so I threw it in a bin! I'm so sorry Mr.Kobayashi. However, three years at Rikkyo has helped me to change and improve my English skills greatly. At Rikkyo, I had various opportunities to improve my English. Among them, the experience in a regional school exchange commission inspired me very much to deepen my interest in English and to study English more keenly. In the three years, I have been in Rikkyo, there has been a Japanese Evening every May. At this event the student introduced Japanese culture to neighboring local people. I have liked English study since I was junior high school student. So, I decided to join the regional exchange commission when I was in H1. The task for us was forming a team with three people, preparing material about Japanese food using Power Point and making a presentation. We chose sushi. "Let's begin!" I shouted in my mind and I was eager to do it.

But, actually I had never used the Power Point before and the computer was set up in complicated English. In addition, my English ability was too poor to make long structured sentences. In other words, I was really a useless guy. But my friend who is good at English as well as crazy for football, talked to me and astonished me. "Hey! You look annoyed? Do you need help?"

I could not believe that he spoke English well because he was two years younger than me, only 14. But, no sooner had he said this than he started typing English fluently and editing the Power Point.

We practiced the presentation thoroughly and he told me about pronunciation, timing and speed. Each time something was unclear, I asked him again and again. As a result, the performance was a great success. This guy is the first person who reminded me of the necessity and importance of English at this school. His existence was motivating energy for me keep studying English, and now I have achieved great results in Eiken, the Cambridge English test and IELTS. If it were not for his help, I would not have achieved this. Thank you very much Taisuke.

Even such a small event is enough to change your attitude towards English. I think you may have experienced something similar in your lives or you may experience something in the future. I found the following things helped me with my study of English: A friend who is good at English, going on a home stay and taking part in exchange programs: Listening intently to the English words and phrases in your favorite music. If you do these things, firstly your interest in English may get stronger, secondly you will like English, finally you will want to try English activities. Moreover, chances will present themselves if you keep trying hard. So, don't waste the chance you are given and just do it. If you have a question, ask someone. You have nothing to lose by asking.

Do what you love and success will follow. Please keep this phrase in your mind when you study English and try something new.

Apart from English skills, I have changed a lot. It's not just in my appearance, but I, myself, have changed. However, as you know, life at Rikkyo is sometimes tough for us. We are not allowed to use internet or go outside freely, there are no meanings for instagram and tapioca drinks. Our life is limited and, at times it can make us stressed. So sometimes we want to escape from here as we become irritated. But, even though I was so annoyed, I still wanted to escape from here but my friends always saved me. Just a very short conversation was enough for me. Our school life is filled with an enormous number of memories which are both trivial and precious, happening in classes, in the dormitory, on Outings and Open days, sometimes after lights out. We are especially united, stronger and more grown up after the Open day. I believe it is special for all Rikkyo students. I will never forget such as memorable days.

Most of the students who are still part of this school consider that it is ordinary to live together two thirds of the year with teachers and friends from dawn until dusk. You will find out later that it is incredibly precious and you will not taste the same life again. Now I will give you advice.

"Treasure every single day here." It doesn't make sense to you at the moment but when you leave school you will definitely understand. That's enough.

Last of all, on behalf of H3 students, I would like to say big thank you to all the teachers and staff members who looked after us for three years, especially, Mr.Ichikawa and Dr.Okano. Thank you very much. And also let me say thanks for my parents attending today here. Thank you.

This speech now has also become one of my great and unforgettable memories at Rikkyo. I appreciate everything in Rikkyo and I'm very proud that I've been told the happiest guy in Rikkyo. Thank you very much indeed and see you soon.

女子バレーボール部 男子バレーボール部

～立教カップ～

今回の立教カップには、現地校二校が参加してくれました。試合中や相手をもてなす際、イギリス人だけでなく様々な国の人たちと英語を使ってコミュニケーションを取ることができ、日頃学んでいる英語を使うとても良い機会でした。

女子バレーボール部は男子バレーボール部と比べると人数が少なく、毎日の結果が表れにくいのですが、今回立教カップで行われた全ての試合から、日頃の成果やこれからの目標を見つけれただけでなく、とても多くの事を学ぶ事ができました。

慣れない試合で三位になりましたが、みんなで全力を出せました。

私は高校二年生でもうすぐ引退するのですが、次また開催したときは、優勝して欲しいと思います。開催してくださった先生方、ありがとうございます。

高等部二年生 女子バレーボール部長



部活動・同好会活動特集

写真同好会

～ Polesden Lacey 訪問～

～ Wakehurst 訪問～



今学期の写真同好会は三回活動しました。そのうち二回はナショナルトラストに外出しました。イギリスはともに見どころがあります。カメラは初心者ですが、年間の活動を通していろいろな教えてもらい、ちよつとは上達しました。

高等部二年生 女子



フラワーアレンジメント部



～毎週金曜日、ペディスタル、チャペル献花、テーブルに飾る花の製作～



本校では放課後と週末の午後が各部活・同好会の活動時間です。文化部からスポーツ部まで数多くありますが、日本の学校の部活動のように一つのクラブに所属してじっくり練習をするというよりはむしろ、いろいろな部活や同好会に所属して多くの活動に参加するという傾向が、本校では強いようです。児童生徒の興味や意欲、季節や学校スケジュールにもよりますが、毎週何回も行われている活動もあれば、学期に一回、年に数回という活動もあります。三学期の活動をいくつかご紹介します。

男子

クッキング部

～お好み焼き作り～

男子クッキング部の活動に初めて参加した。

切り方など、中学の家庭科の授業で学んでいたのですが、お好み焼きくらいできると思っていたが、料理は慣れないと危ないんだな、と思った。そして、料理を始めて片づけが終わるまで二時間半くらいかかった。

料理の大変さがわかった。

高等部二年生 男子



～フォンダンショコラ作り～

女子 クッキング部



サッカー部

プレミアリーグ観戦へ

様々な方々のご尽力によって実現したプレミアリーグ観戦と、吉田選手との交流は、参加した生徒たちに大きな刺激と感動を与えてくれました。

貴重な体験をして

高等部一年二組 久米 瑛司郎

私は今回、初めてサウサンプトンの試合を観に行きました。最後にプレミアの試合を観たのは一年ほど前だったので、久しぶりにプレミアの雰囲気ですべてを観ることができてとても楽しかったです。

やはり、どのチームもプレミアは盛り上がり方が日本とは違って最高でした。試合前には、ユニフォームとボールを買っていました。試合後には吉田選手と会えると聞いていたので、試合前からとても興奮していました。残念ながら試合には出場せず、負けてしまいましたが、とてもいい試合で、終始声を出していました。上手い選手がたくさんいて、勉強にもなりました。スタジアムはサッカー専用で、小さいですが、小さいからこそ臨場感などが伝わってきました。席には応援するためのグッズがあり、たくさんたきました。試合の展開は、ロスタイムに追いつき、次のプレーで失点して負けてしまう残念な形でしたが、それが

サッカーだなと思いました。

試合後、吉田選手が来て、記念撮影やサインをしてくれる時間があり、とても優しくよい人でした。その後、質問で「今まで戦ってきた中で怖い選手は誰ですか」というものがあつたのですが、アグエロやスアレスなどスーパースターの名前が出てきて、改めて世界で活躍する人はすごいなと



吉田麻也選手へ

高等部一年一組 太野 絢子

私は、サッカー部ではないので抽選でした。友達の分もお願いされていたので、余計に緊張と不安で一杯でした。そんな気持ちで追いつかないまま、二人分の当たりを引いていました。すごく嬉しかったです。喜びと同時に、運を使ってしまったなとも

思いました。でも、この機会に運を使えて良かったなと今では思います。人生初の、生でのサッカー観戦がプレミアリーグとは何て贅沢何だろうとずっと色々な人に言われると思います。この貴重な体験が出来たことは一生忘れることはないし、胸をはって言える私の自慢です。

会場に入った時にすごく近いなと思いました。当然会場の端から端までとても遠いと思いますが、不思議

とその時はとても選手の皆さんが、向こう側にもいる応援している人達が近いなと感じました。テレビ越しに観るのと実際にその空間で観るのでは当然ではあります。が、全く違って、時間があつという間に過ぎました。

今まさに世界で活躍している吉田選手を目の前で見て、お話を聞いて、ありきたりな言葉ですが、とてもかつこいいなと思

ました。私はあるスポーツで世界で戦える選手になりたいと思っています。私の夢です。実現するまで道のりは果てしなく遠いですが、吉田選手の言葉を聞いて、自分の思いが強く固まったなと感じます。



パンケーキデイをご存知でしょうか。

飽食を控えたり断食をしたりする、イースター前の40日間をレント（大斎節）と言います。イギリスでは、レントに入る直前の火曜日に美味しいパンケーキを食べる習慣があります。パンケーキの入ったフライパンを持って走るパンケーキレースが行なわれる町や村もあります。

小学部では3学期の英語の授業のまとめとして、普段お世話になっているスタッフをご招待して、パンケーキパーティを開くことにしました。

パンケーキの作り方は、学校のキッチンでシェフのマイケルさんに教えてもらいました。日本で言うと、クレープに近いものです。薄いパンケーキに、砂糖をふりかけ、レモン汁をかけ

PANCAKES PARTY

て4つに重ねていただくのがイギリスのパンケーキです。

英語のマルコビッチ先生と田中先生が6年生の3人には内緒で計画し、授業中にサプライズとしてティーパーティーをしてくださいました。お茶を飲みながら今学期に習った文法を使った会話を練習しました。

マイケルさんに教わったパンケーキを、家庭科の時間に練習し、いよいよティーパーティー当日。招待したのは、事務やメンテナンス、クリーニングなどの学校生活を支えてくださるスタッフです。ほとんどは英語ネイティブの方々です。忙しい中何人ものスタッフが入れ替わり来てくださって、パンケーキを食べ、6年生の3人とおしゃべりをしてくださいました。「とても美味しかった。可愛い3人と話せて楽しかった。」とスタッフも喜んでくれました。



英国式パンケーキレシピ

材料

小麦粉100g

卵(L) 2個

牛乳300ml

レモン・グラニュー糖

作り方

1. 小麦粉と卵と牛乳と塩をボールに入れて混ぜる。30分ほど寝かせる。
2. フライパンを中火で熱し、おたま一杯分の生地を入れ、薄くのばす。1分ずつ両面を焼く。
3. お皿に乗せて、グラニュー糖とレモン汁をかけて4つに折っていただく。



全校かるた大会



全校かるた大会は、全校児童生徒が参加する三学期の恒例行事で、今回は記念すべき第十回目となりました。今年度は「百人一首を覚える」という冬休みの宿題は出されなかったのですが、恒例行事ということもあり、多くの児童生徒が自主的に準備をしてきたようです。というのも、かるた大会は個人対抗だけでなく、クラス対抗でもあるからです。小学6年生から高校1年生までが同じ札を囲んで真剣勝負です。

百人一首というと、古文を授業で扱っている高校生が有利と思われるかもしれませんが、しかし、実はそうとは限らないのです。小学生や中学生は、国語の授業やホームルームの時間を使い、多くの歌に触れたり、練習をしたりしてきたからです。

また、百人一首にたくさんさんの時間触れることによって、お気に入りの歌ができます。その歌の札を手に入れるために、上の句下の句と歌全体を覚え、上の句で手に入れようと一生懸命になります。そうして、実際に自分の札にしたことをきっかけに、より多くの札を取ろうと積極的に取り組み、みるみるうちにたくさんさんの歌を覚え、上の句で札を取り合う姿が多く見られるようになりました。また、かるた大会が近づくとつれて、生徒たち

の間では食事の席で学年隔てなく、札の覚え方や、思入れのある歌についての会話で、盛り上がることも多くなりました。

大会当日、全部で三回戦、「桐壺」「席名を思い出せないで席名を一つ入れてください」などの各組に分かれての勝負です。6名の先生方が、読み手として歌を詠んでくださいました。読み手が変わることにも、場も盛り上がりを見せました。

第三回戦目、最後を締めくくった歌は、「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」でした。在原業平の歌です。漫画やアニメや映画の影響もあったのでしょうか。ほとんどの生徒が上の句の「ちは」の時点で動き出し、勝負が決定していました。今回のかるた大会で一番の盛り上がりを見せ、とれなかった子はとても悔しそうでした。真剣勝負ならではの面白い一幕でした。

優勝は、小学部6年生中学部1年生の合同チームでした。上級生に囲まれ緊張する中でも、上の句で、堂々と札を取っていました。そして、準優勝は中学2年生と年少学年のあなどりがたいパワーを見せた結果となりました。日本の文化に触れ、クラスの親睦を深めた、かるた大会となりました。

三学期アウトティング

高2

マダム・タッソー

ミュージカル「レ・ミゼラブル」鑑賞



アウトティング

高等部二年二組 速水 理名

二月四日、私たちはあいにくの天気の中でアウトティングに出発した。心待ちにしていた行事だったのに天気が悪くて少し残念に思ったがそれでもとても思い出に残るものだった。

まずはじめにマダム・タッソーを訪れた。マダム・タッソーは中三の時に一回訪れ、とても楽しかった思い出があったのでもう一回訪れることができるのは嬉しかった。二度目でもたくさんの有名人や映画の世界

のキャラクターと一緒に写真撮影をできてとても楽しめた。二度目だったが、蠟人形の完成度には驚いた。また学校のヒストリーの授業で習っていた黒死病（ペスト）についてのことをイギリスの歴史を見るアトラクションで見たり、同じく習ったエリザベス一世を蠟人形で見たりすることができたのも感動した。中三の時と異なるグループで行った二度目のマダム・タッソーも記憶に残るいい思い出になった。

夜には、ミュージカル「レ・ミゼラブル」を観た。イギリス人の先生や周りの友達から良いと言うことをたくさん聞いていたのでもっと楽しみたかった。話が複雑なのは聞いていたのでもしおりのあらすじを読んでおいた。しかし、いざミュージカルが始まってみると、結構難しく最初は登場人物を把握するのも大変で早い英語の台詞や歌から聞き取ろうとした。後半はようやく把握できて楽しむことができた。私が特に感動した場面は二つあった。ひとつはエポニーヌが亡くなるシーンで、もうひとつはジャンの最期だった。二つとも観ていてとても切なくなつた。歌の歌詞も登場人物の気持ちがあるまま歌われていたので感動した。ミュージカルが終わった後も歌が頭の中で流れていて本当に良い話だったと思った。今回もたくさんの良い経験ができた印象に残るアウトティングだった。特に「レ・ミゼラブル」はもう一回観たいと思った。



高1

ナショナルギャラリー

ミュージカル「ウィキッド」鑑賞



二月四日月曜日、イギリスらしい、傘がいら
ない程度の小雨のち曇りという天候の中、全校
の児童生徒がアウティングに出かけました。そ
れ以前の週のような厳しい寒さにならなかった
のは何よりでした。チャイニーズニューイヤ
ーの時期でもあり、観光客で一層賑わうロンドン
の各所で、楽しく充実した時間を過ごしました。



中 1 · 2

自然史博物館・ブルーウォーター

中3

自然史博物館

ミュージカル「マンマミーア」



小学部

ビクトリアアルバート博物館
ケンジントン宮殿



退任される先生方



佐藤忠博校長は退任後、4月より立教新座中学校・高等学校の校長に就任いたします。国語の梅田悠紀子教諭、社会の伊佐治夏海教諭、国語の福島寛美教諭、小学校の佐藤陽子教諭、ECのMs Olley、GuitarのMr Levtovが退任されます。大変お世話になりました。どうぞお元気で！

チャプレンより第九回



立教英国学院の学校牧師、チャプレン様です。礼拝や聖書のお話をさせていただきます。

葉桜の復活日

この原稿が皆さんに届く頃には、日本でも桜が咲き始めているかと思いますが、立教英国学院の敷地内にも桜があります。これは遠く日本を離れた子弟のために植樹されたものです。卒業式に咲くことは適いませんが、入学式には満開のことでしょう。

今年のイースター（十字架にて死なれたイエス様が三日目に復活されたことを記念する日）は例年と比べてだいぶ遅く、四月二一日となっております。復活の喜びと共に満開の桜を楽しむのも良いものですが、葉桜の瑞々しい新緑と共に命を与えられた意味について思いを馳せるのも良いものかもしれません。

太宰治の作品の一つに『葉桜と魔笛』（1939）という短編があります。太宰がキリスト教の影響を受けたことは有名なことです。

それは「桜が散って、このように葉桜のころになれば、私は、きつと思ひ出します。——と、その老夫人は物語る。」という一文から始まります。

この作品には、後に老婦人となる姉と、病弱な妹とがでてきます。ある日姉が妹の筆筒を整理したところ、ある男性からの手紙を発見します。ところがその手紙の最後の一通には、妹の病気を知らずや、もう互いを忘れようと思われていました。

姉は衝撃を受け、しかし妹が可哀想です。筆跡を真似て励ましの手紙を妹に渡します。「僕たち、さびしく無力なのだから、他になんにもできないのだから、せめて言葉だけでも、誠実に生きてお贈りするの、僕と僕はいまでは信じています。」あしたの晩の六時には、きつそく口笛、軍艦マアチ吹いてあげます。僕の口笛は、うまいですよ。いまのところ、それだけが、僕の力で、わけなくできる奉仕です。」という一文を認めて。

ですが、妹は全てを知っていました。それどころか今までの男性からの手紙は、自分で書いたものだと思ひ、男性との出会いもなしに死んでいく恐怖におののくのです。姉と妹は抱き合い涙を流します。すると、低く幽かに、口笛が聞こえるのです。それはちょうど、六時のことでした。

「三日後」妹は死にます。余りにも早い死に医者は首をかしげるのですが、姉は「神さまは、在る。きつと、いる。私は、それを信じました。」と独白するのです。そして年老いた姉は、ひよつとしたあの口笛は父のものかもしれない。だがやはり神さまのお恵みではないか。「私は、そう信じて安心してやりたいのでございますけれど、もう、年とつて来ると、物慾が起り、信仰も薄らいでまいって、いけないと存じます。」という言葉で、この短い作品は幕を閉じます。

太宰は、このように神の不在を描くのです。と同時に、一人一人の祈りを描くのです。妹の告白。姉の手紙。父の口笛。聖書は、十字架の道行きの主イエスの姿において、徹底的に父なる神の不在を描きます。イエス様の孤独を描きます。父なる神の不在という孤独。また、弟子達や人々の無理解という孤独。主イエスが受けられる孤独は、人間の最大の絶望です。

人間は常に絶望に怯え生きています。私達はこの絶望を思い浮かべるとき、目眩を覚えるかもしれません。高いところに立つと、転落する不安に駆られるように。朝になれば光が差すというのに、夜の闇を怖がるように。

この深淵、まことの闇の中、祈り続ける主イエス・キリストの御姿があります。主イエスは、ご自分の両隣に架けられた罪人のため、また自分を十字架に架けた人々のために、祈られました。投げ捨てられた人々のために、夕暮れを恐れる人々のために。

愛は深ければ深いほど、誰かの苦しみを引き受けるものです。ですから主イエスの十字架での苦しみは、全ての人の苦しみののです。聖ボナヴェントゥラが言うように、自分の運命と他人の運命の、区別がなくなればなくなるほど、愛は大きくなるのです。そうしますと、私達はこの十字架に、神の愛の輝きを見い出します。御子の十字架において、御父が苦しめないことがありましようか。十字架には父なる神の愛が秘められています。その愛によって、私達を愛される主イエス・キリストの御姿があります。そして主イエスの愛の血の流れは、私

2019 年同窓会のお知らせ

今年も以下のように同窓会を開催致します。31 日ですのでお忙しい方も多くかと存じますが多くの皆様のご出席をお待ちしております。なお、会の冒頭で昨年お亡くなりになりました宇宿昌洋先生と大塚稔夫先生の為、黙祷の時間を持つ予定です。

日時：2019 年 3 月 31 日（日） 12 時 30 分受付開始 13 時から 15 時

場所：立教大学 第一食堂（池袋キャンパス）

会費：学生 1,000 円、一般（一家族）3,000 円（軽食 + アップルクラム付き）

※ 出欠について e-mail 又は Fax にてご連絡下さい。

e-mail: rikkyoeikoku-doso@triton.ocn.ne.jp

Fax: (03) 3985-2785（立教英国学院東京事務所）

◆こちらのサイトからも出欠のご連絡可能です。

<https://goo.gl/forms/oNAhM2o8zX6Wbro1>

達の心へ注がれることによって、無数の花を咲かすのです。桜花は過ぎ、葉桜が目を楽しませます。何故なら、新緑は落ち葉となり裸の枝となろうとも、変わらぬ雨と太陽と、夜と朝との繰り返しにより、新たな蕾の芽生えを知っているからです。祈りと共に、十字架と復活の日を待ち望みたいものです。



立教英国学院通信の電子配信への切り替えにご協力ください。ご意見・ご感想もこちらへどうぞ。

publicrelations@rikkyo.uk